

医学科卒業後の進路は大きく分けて三つあります。卒業までに進路を選択し、進路に応じた学習が始まります。卒後10年間は基本的学習が続き、その領域をリードしていくための学習は一生続きます。

1 臨床医・専門医へ

卒業生の多くが目指すのはやはり臨床医や専門医です。一般的には大学病院などの指導体制が整った病院で研修、診療、研究を行い、高度な専門的技術や能力を磨いていきます。専門医の資格を取得し、さらに大学院に進学してすぐれた臨床研究を行い「医学博士」となることが望まれます。

2 医学研究者・教育研究指導者へ

先進各国における生命科学の主要な担い手は、医学研究院・医学部医学科の研究者です。医学科卒業後は大学院に進学し、専門的技術や能力の基盤を築きます。研究者・教育研究指導者にとって「医学博士」となるのはその最初の通過点です。医学科在学時から大学院博士課程の科目を履修できるMD-PhDコース(解説p.19)の選択を推奨しています。

3 専門職へ

公衆衛生、国際保健、医療行政などで活躍する専門職です。エイズや人獣共通感染症など、国境を越えて広がる新たな疾患に対する疫学調査や予防への取り組み、また医療保険制度など医学医療制度を研究し、施策を提言します。2と同様に、卒業後は大学院へ進学し「医学博士」となることがその第一歩であり、MD-PhDコースの選択を推奨しています。

履修モデル



※1 初期臨床研修を修了していなければ診療に従事することはできません(医師法第16条)。
 ※2 新専門医制度(2018年4月開始)による専門研修専攻例。研修の期間・内容は、基本領域(内科や外科など19領域)ごとに定められた専門研修プログラムにより異なります。専門医になるためには専門研修を修了する必要があります。
 ★専門研修最終年に博士課程の履修を開始する例

教員からのメッセージ

来たれ、北海道大学医学部医学科！

北海道大学医学部医学科は、2019年に創立百周年を迎え、医学・医療の分野で活躍する数多くの人材を輩出してきました。私たちの教育目標は、広範な医学知識、高い倫理観、豊かな人間性、国際的視野を備え、医学の進歩と医療の実践・発展に寄与する医師・医学研究者を養成することにあります。

北海道大学は、日本屈指の広大なキャンパスに、多くの分野の学部・学科をもつ総合大学です。本学の医学生は卒業までの6年間で、医学はもちろんのこと、科学、文化、歴史、外国語、社会学などの幅広い領域の学びを通して、人格と教養を磨き、また学問分野や年齢、国境を超えた交流を通して、社会人、国際人としてあるべき幅と深みを養っています。

また、全学には120の文化系、体育系の団体があり、医学部医学科にも20を超える団体がおり、多くの学生が所属し活発な活動をしています。学業とともに部活動を通して様々な経験を積み、生涯にわたる友人を得ることができます。

医学部卒業後は、「臨床医・専門医」「医学研究者・教育研究指導者」「公衆衛生・国際保健・医療行政の専門職」などの多方面にわたる進路があり、みなさんの希望や特性に合わせて将来を設計することができ、実際、卒業生は、北海道内はもちろん、日本全国、世界で活躍しています。

私たちは、みなさんが将来、素晴らしい医師・研究者・専門職として活躍できるよう全力で支援いたします。みなさんの入学を心からお待ちしています。



本間 明宏先生
 医学部医学科教務委員会委員長
 (耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室教授)

臨床研修医からのメッセージ



豊島 魁さん
 北海道大学病院
 初期臨床研修医

北海道大学医学部の6年間

こんにちは。私は北海道大学医学部を卒業後、現在初期研修医2年目として北海道大学病院で研修をし、とても充実した毎日を送っています。

北海道大学は札幌の中心部にありながら自然に囲まれた広大なキャンパスが特徴です。総合大学のため、様々な学部の学生と北大祭やサークル活動で交流する機会があります。6年間の学生生活は、1年生は総合教育部として他学部の学生と同じクラスに配属されます。教養の授業だけでなく、様々な行事もクラス単位で行われるので、他学部の友人がたくさんできます。2年生からは解剖実習や組織学、病理学といった基礎医学の授業が始まります。4年生からは臨床実習として各科のローテーションが始まり、実際の患者さんに問診や診察をさせていただくことや、カンファレンスでの発表など様々な経験を積むことができます。また5年生からは市中病院での研修も経験することができます。卒業後の進路は私のように北海道大学病院で研修を行うものもいれば、道外の病院で研修を行うことなど自分に合った研修を選択することができます。あなたもぜひ北海道大学で充実した大学生活を送ってみてはどうでしょうか？

大学院生からのメッセージ



木村 将吾さん
 大学院医科学博士課程3年
 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室

臨床での経験を糧に大学院で新たな学びへ

私は医学部卒業後、2年間の初期研修を経て、2012年に後期研修医として北海道大学病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科へ入りました。大学病院、札幌、函館、釧路など様々な病院で臨床の経験を積み、2017年に耳鼻咽喉科専門医となりました。2019年より大学院へ進学し、現在は大学院3年目になります。

臨床での診療にやりがいを感じつつも、文献から疾患や治療法に関する知識を得るだけでなく、自らも研究し新しい知見を発信したいという思いが大学院進学への原動力となりました。

2020年から医化学教室でお世話になり、TRIMファミリーユビキチンリガーゼの解析研究を行っています。今まで触れることなかった基礎医学の世界は驚きの連続ですが、研究結果から疾患メカニズム解明への手がかりを発見できた時は何ものにも代えがたい喜びがあります。また臨床では鼻中隔矯正術に関する研究を行っており、先日その論文が英文雑誌に掲載されました。今後は基礎研究の成果を英語論文として世界に発信できるよう日々実験に励んでいます。

大学院は臨床で興味を持ったテーマをじっくり研究し、それを世の中へ還元できる貴重な場だと感じています。『大学院進学』という選択は、皆さんが医師としてさらに飛躍できる可能性を大いに秘めています。